

(学年) 第 1 学年, (教科・科目) 芸術・美術 I

一斉学習

(単元) 立体構成

(本時のねらい)

- ・立体構成の社会での役割や具体的な技術や製品を知り, 理解することができる。
- ・立体構成に関心を持ち, 幾何学で美しい陰影や表情の違いを考え構想を練り, 主体的に制作することができる。

(ICT 活用方法)

立体構成の技術が社会のどの分野でどのような役割を果たしているのかを説明するために, 具体的な技術や製品の写真を提示する。電子黒板と教員端末を活用することで, 注目しやすく, 部分的に拡大して見せることもできる。また生徒端末で生徒自身が撮影することで, 立体作品の陰影の美しさを鮮明に感じとることができるようにする。授業支援アプリで他の生徒作品の鑑賞もしやすく, 次時の制作に生かせるようにする。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法
導入 15分	・プレゼンテーションスライドと参考作品を鑑賞し, 立体構成の社会での役割や具体的な技術や製品を見ながら理解する。	・作品例を見せながら, 立体構成の社会での役割や機能とともに造形の美しさとの関係についても気づかせる。 ・生徒端末を活用できているか確認する。	・教員端末で立体構成の技術や製品を提示し, 電子黒板に投影して説明する。 ・特に注目してほしい部分を拡大したりペン機能でマークして理解を深める。
展開 30分	・参考作品を見ながら, 課題に取り組む。  ・課題を写真で記録する。	・完成イメージを持たせるために参考作品と展開図を提示し, 丁寧に美しく制作できるよう助言し, 意識させる。  ・撮影用ブースで美しく撮影できるよう指導する。	・必要な場合は生徒端末で参考作品を見ながら制作する。  ・生徒端末で撮影する。
まとめ 5分	・自分の作品を撮影し, 本時の活動内容を振り返る。  ・次時の活動を知る。	・生徒作品を撮影し, 電子黒板で生徒に提示し, 本時の振り返りをさせる。  ・次時の演習課題の内容を伝える。	・教員端末で撮影しておいた作品を電子黒板に映して, 次時の課題を見つけさせる。

(授業の様子)



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

1人1台端末を使用することで座席に関係なく、各自でプレゼンテーションスライドを見ることができるので、見やすくなると考えられる。また立体構成は、実物よりも写真で撮影することで空間を捉えた作品として完成度を高め、肉眼で見るとよりも白い紙の持つ美しさをより実感することができた。

授業支援アプリに画像のアップロードを行い、クラスで共有し鑑賞することで、生徒の関心を高めるとともに、制作後の振り返り（ポートフォリオなど）に活用することができた。

課題について、現在は美術室に電子黒板もルーターもないので正確な生徒の反応はわからない。しかしICTの環境を整えていく必要性は日々感じている。まずはWi-Fiルーターの設置の要望中である。

校内外の研修や他教科の先生方から電子黒板の活用方法を学び、可能な限り電子黒板の設置された教室を使用していきたい。また教室の環境から主光の設定が難しく、遮光カーテンの設置や撮影用のブースを設けるなどする工夫が必要である。